

鮭川出張所河川愛護モータ - 通信Vol.6 1

真室川小学校環境委員会の児童のみなさんからいただいた質問・報告と、鮭川出張所からの回答をご紹介します。

「質問」 夏休み中に川の事故がありました。どんなところが危ないのか？どうしたら安全に遊べるのかなと思いました。

「回答」 **川の危険**

川の水は、海の水と違って体が浮きません。岩などに水がぶつかって白く泡だった箇所は空気が多く含まれており、水が軽くなり、人間の体が沈みやすくなります。

川は、目に見えない流れや急に深くなる所や滑りやすい所があるので、表面は穏やかでも水中には注意しましょう。流された物を追いかけていたら深みにはまってしまうケースも多いようです。

護岸の際、川の中のブロックや橋の下などの人工構造物の周辺や内部は複雑な流れが発生しているので近づかないようにしましょう。

遊んでいる場所の天气がよくても、はるか上流で大雨が降り、一気に増水する場合があります。もし天气がよくても、川の水が濁ってきたら、増水の危険性があるので水から上がるようにしましょう。



護岸とは・・・
 洪水時の侵食を防止する目的として表面をコンクリート等によってコーティングして設置されているもの。

安全に遊ぶには

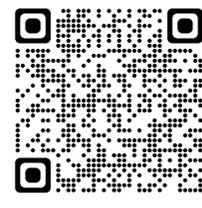
気候の変化や川の状況を川に行く前からチェックするようにしましょう。

水際から3~5mに立ち入る時はライフジャケットを着用し、脱げないくつを履きましょう。

万が一事故が発生した際に速やかに救助をしたり、助けを呼んだりするために救命ロープやホイッスルを用意しておくといでしょう。

溺れた人を見つけた時に一番やってはいけないのは「助けるために飛び込む」ことです。近くに長い棒などがあれば、それを差し伸べます。届かないところであれば、浮くものやロープを投げます。

もし急に足がつかなくなってしまっても、あわてて声を出さないようにしましょう。声を出すと肺の空気が抜けて浮力を失います。また、助けを求めて両手を水面に出すと腕の浮力を失い体が沈んでしまいます。まずは呼吸を優先するために、あおむけで力を抜いて、浮いた状態で救助を待つ行動をしましょう。



国土交通省では、多くの子どもたちに安全に楽しく川で遊んでもらうために、うんこドリルとコラボし、「うんこドリル 川の安全」を作成いたしました。川の安全に関する知識をクイズ形式で学べるWEBアプリです。ぜひお試しください。

「うんこドリル 川の安全」